

2021年度

(指定管理)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい
事業報告

社会福祉法人はるにれの里

目 次

1. はじめに

3 P

2. ゆい全体にかかわる事業報告

① ゆいの使命の実現のために

② ゆいバリューに基づく実践

(1) 『証』根拠に基づくチャレンジをする

(2) 『和』チームとして一流を目指す

(3) 『快』きれいなゆいを常に目指す

(4) 『続』最強の支援力はコツコツである

(5) 『安』やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい

(6) 『暖』私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる

3. 各部署における事業報告

9 P

(1) Aブロック

(2) Bブロック

(3) Cブロック

(4) 生活介護

(5) 事務

(6) 医務

(7) 栄養

(8) 各委員会

作業委員会

環境向上委員会

人権推進委員会

余暇委員会

1. はじめに

はじめに

今年度は、4月15日に在宅からの通所利用者1名の新型コロナウイルス感染が確認され、隔離やゾーニングなど可能な限り予防の対応策を講じた。また法人全体での応援体制を取るとともに、保健所の指導のもと感染拡大を防ぐための取り組みをおこなった。新たにグループホームの利用者2名、職員2名の感染は確認されたが、それ以降の感染を防ぐことが出来た。また7月11日に職員1名の感染、1月12日には職員2名の感染、3月10日にも職員1名の感染が確認された。すぐにゾーニングや感染エリア封鎖、防護衣等感染予防の体制を取った。また保健所の指示のもと関係者のPCR検査を実施し、関係する利用者、職員は陰性であった。

これまでの間、直接対応に当たった職員や後方支援、調整に当たった職員など、関係者にあらためて感謝申し上げたい。

多くの生きづらさを抱える方たちへの支援について、特性の振り返りやチームで考える視点、支援を高めるための研修や学び、根拠のある個別支援計画作成と振り返りなど、『証』『和』『快』『続』『安』『暖』を柱として重要なポイントを整理する。

2. ゆい全体にかかわる事業報告

①ゆいの使命の実現のために

◇地域に戻るための取り組み

- ・地域移行に向けて

昨年度よりグループホームほしの窓の空き部屋に、ゆいの女性利用者1名が移行に向けてチャレンジしていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ現在は一時中断している状況である。

- ・グループホームよもぎの体験利用

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら環境予防を徹底し、利用を少しずつ再開している。

- ・地域生活支援センターなないろ開所と新規利用者受入れに向けて

当初の予定通り、5月から隣接する「地域生活支援センターなないろ」への移行を進めた。6月前半には19名の方の移行が完了し9月には20名が利用している。ゆいの生活介護に新たな受け入れ枠ができたため、上期は3名の方を新規で受け入れることが出来た。職員配置上の課題はあるが、体制が整い次第更なる新規利用を受入れていきたい。

- ・グループホームへのサポート機能について

5月から「地域生活支援センターなないろ」が開所となり、地域支援職員と共に、グループホームのバックアップ機能はなないろに移ることとなった。

引き続き、ゆいも連携し地域に戻る取り組みを継続していく。

◇地域の方々へのサポート

- ・地域イベントへの積極的な参加

例年は、隣接地にある特別養護老人ホーム『ひかりの』さん主催の夏祭りに企画の段階から参加させていただいていたが、今年度もコロナウイルスの感染状況を踏まえ中止となった。また町内会の交流の場であったバーベキューについても中止となった。

町内の交通安全啓発活動については、感染予防に配慮して実施することとなりゆいからも職員が参加した。また、ゆい周辺のゴミ拾いを実施するなど、感染予防に配慮した上で、できることを実施した。

◇地域への貢献

- ・前期はコロナウイルスの感染防止を徹底していたが、11月以降はコロナウイルスの感染が一定程度落ち着いたという判断のもと、事前の検温やフェイスガード着用、環境消毒を徹底するなど感染予防を徹底し、短期入所の利用を少しずつ再開した。またご家族や支援者の見学受入れも再開することができた。

②ゆいバリューに基づく実践

(1)『証』 根拠に基づくチャレンジをする

◇個別支援計画の運用

昨年度より新書式を導入することで、より分かりやすくするための工夫を進めている。新たな課題も見られたため、今後少しずつ精度を高めていけるよう人権推進委員会を中心にフォーマットの変更を進めていきたい。

例年は、保護者との懇談会を実施しての説明をおこなっていたが、コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話での説明を行う場面が多かった。

◇研修の活性化

- ・今年度は、コロナウイルスの感染予防の観点から、全国の研修が中止、またはリモート研修に代わっている。法人としても3密を防ぐため、法人内研修はリモートでの実施となった他、外部研修についても密を防ぐ前提で参加の判断をしている。ゆい塾についても全4回実施することはできたが、いずれも映像を各自視聴してもらう形をとった。
- ・全職員が何らかの研修に参加できるよう計画していたが、コロナウイルスの影響から、予定していた研修が大幅に減ることとなった。

<2021年度 研修参加状況>

- ・自閉スペクトラム症関連研修・・・ 6名参加（リモート）
- ・強度行動障害支援者養成研修・・・ 4名参加（リモート）
- ・在宅栄養管理学会主催研修・・・ 1名（リモート）
- ・障害者虐待防止関係研修・・・ 2名（リモート1名）
- ・法人内職群別研修（毎月）・・・ 全職員リモート視聴
- ・ゆい塾を年4回（全て動画視聴）開催し、多くの職員が視聴した。

1回目 自閉症の特性理解

構造化について

感染予防について（環境向上委員会）

2回目 自閉症のコミュニケーションについて

組織（社会）人としてのコミュニケーションについて
震災への対応

ゆいの事務手続き関係

3回目 グループホームの暮らしに向けて必要と思われる取り組み
グループホームの実践例

- ・ GHほしの窓 支援で大切にしたい4つのルール
- ・ GHふおるてステラ 支援で大切にしたいこと

4回目 ゆいとして大切にしたいことの振り返り
それぞれのチームを振り返って
気道閉塞について

(2) 『和』 チームとして一流を目指す

- ・ 年3回のチーム支援報告会を実施した。入所の各ブロックと生活介護でそれぞれチームで取り組める活動について検討し支援を進めた報告である。利用者のニーズや特性・配慮する点について、また業務の効率化を図るための視点などチーム全員で取り組み、結果から見えた課題なども共有し、次の取り組みに繋げる視点となっていた。動画視聴というかたちではあったがチームで取り組んだ内容の報告を互いに聞くことで良い刺激にもなっており次年度も継続していきたい。
- ・ 3密の回避を前提として、月に最低1回は管理職も参加するユニットカンファや委員会の場を確保するように努めた。短時間で効率的な話し合いを進めていけるよう、会議終了時間を決めるだけでなく、その会議の趣旨（情報交換の場・協議事項の場であればそのポイントなど）や会議のための事前の準備などが浸透してきている。各チームの代表者に参加してもらうことで密を避ける一方で、全職員に情報が伝わるよう連絡の徹底を図った。
- ・ ケースカンファレンスについて、月に2回出勤者を増やし、スタッフミーティング日とユニットカンファレンス日を設定した。そうすることにより、チーム会議や各種委員会、個別のケースカンファレンスの時間に充てることが出来た。
- ・ 春に新生活介護事業所なないろの開所に伴い、利用者の異動が行われた。事前の準備やシミュレーションをおこない、無事に移行することができた。
- ・ 4月に採用された新職員について、各チームの団結力や先輩バディの配慮により、新任職員も職場になじむことができている。また、新人職員だけのミーティングや先輩バディ職員のミーティングを実施し、意見の交換をおこなった。
- ・ 既存の働き方の振り返りについて今までも議論を重ねてきたが、時間外での業務について等、働き方を見直すための『ゆい体制会議』を2カ月に一度開催している。利用者の活動や生活に支障が出ないよう各チームのリーダーが会議に参加しゆい全体に関する取組みを進めた。
- ・ リーダーやサブリーダーなど、それぞれの職員の役割を明確にすることで意

識すべきポイントが整理され、更には、マネジメントやリスク管理についても意識を向け、チームとして機能していたものと考えている。

(3) 『快』 きれいなゆいを常に目指す

- ・環境向上委員会を中心に、環境美化に努めるだけでなく、衛生面についての啓発もおこなった。またコロナウイルスの感染に備え、ゾーニングのシミュレーションと共に必要な物品を揃えた。
- ・建物の修繕については、突発的な不具合など当初の計画どおりにいかないこともあったが、できるだけ速やかな復旧や補修に努めた。異食のリスクも意識した対策を次年度も講じていきたい。
- ・活動場所の有効利用について、他ブロックのスペースやグループホームよもぎの体験利用スペースなど、コロナウイルスの感染予防の観点から、人流を避けるため予定通りに進めることが出来なかった。
- ・ゆい親和会との環境整備についても、コロナウイルスの感染予防の観点から当初の計画に沿ってすすめることができなかった。会計監査については、最少の人数でおこなっていただくことができた。また、ガーデンパーティーについては、利用者のみでの参加とし、感染予防を徹底した上で実施した。

(4) 『続』 最強の支援力はコツコツである

- ・ゆいの大事にしたい考え方の柱である「ゆいバリュー」について、利用者支援やチームとして、また社会人としても意識しておくべき内容であると考えている。年末に職員全体へのアンケートを実施し、1年を振り返っての反省や課題、そして課題改善のための提案を伺うことが出来た。次年度のゆい指針に反映していきたい。
- ・人権推進委員会が中心となり、セルフチェックシートを活用し全職員からの意見を伺うことが出来た。
- ・余暇委員会主導で例年実施していた多くの職員が参加しての懇親会を企画することが出来なかったため、次年度は新たな余暇企画を検討していきたい。
- ・業務意識を高めるための工夫の一つとして、事故が起きる前の予防的な視点として、ヒヤリハットレポートからディスカバリー（発見）レポートの活用を進めてきた。レポートが出される時期や内容などを検証し、大きな事故に繋がらないよう今後も意識を高めていけるよう啓発していく。
- ・コロナウイルス感染対策

北海道や札幌市の指針に沿って、法人の医療連携委員会を中心とした協議により、感染の予防については定期的に法人から指針が示され、それに沿った対応を実践している。職員自身の感染予防意識を高めるための啓発をおこなった他、具体的には3密を防ぐために、各種会議は最低人数の参加（情報の共有はしっかりとおこなう）、手洗い・手指消毒の徹底やマスク着用、定期的な換気、毎朝の検温、体調不良の際の連絡などである。また、利用者ご自身での感染予防が難しいことから、混雑を避ける、手指消毒、手洗いやマスク着用のチャレンジもおこなった。

保護者への外泊や面会自粛の依頼もさせていただき、多くのご理解とご協力をいただくことができた。その中で可能な方については、オンライン面会を実施するなど、ご本人・保護者へのニーズに寄り添いながら対応することもできた。これまでの新型コロナウイルスの感染を踏まえ、コロナワクチンの接種とあわせてより一層の感染予防を徹底し、持ち込まない・持ち出さない意識を継続させていく。

(5) 『安』 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でいたい

- ・ 職員のメンタルヘルスチェックについて、法人全体として、また人権推進委員会を中心にアンケートを実施し、結果を踏まえた報告もすることができた。
- ・ 防災についての取り組みとして、以下の内容で実施した。

○ 救急救命法の実施

コロナウイルスの感染予防のため、消防庁監修の応急手当 WEB 講習」の動画視聴とした

○ 総合避難訓練の実施（日中想定）

消火、通報、避難誘導、消火器訓練

9月29日 全利用者、職員が参加

○ 自衛消防訓練（夜間想定）

火災発報地区表示板を確認し、初期消火から避難誘導開始までの訓練

6月30日

○ その他

水防訓練 10月27日

震災訓練 1月26日

緊急連絡訓練 8月28日

災害備品確認 10月27日

○ 自家発電装置が12月に設置されたことで、緊急時では、72時間の電源が確保されることとなった。

○ パソコンやプリンターの不具合や故障に関しては迅速な対応を心掛けた。予算の関係もあるが、次年度は買い替え等も検討していきたい。

(6) 『暖』 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる

◇ 一人の人間として高まる

○ 利用者プロデュース

昨年度までは利用者のアート作品を缶バッジやクリアファイル、ステッカー、ポケットティッシュとして商品化し販売をすすめた。今年度は、新たに「たい肥」作業を導入し、ゆいブランドとしてステッカーを貼り販売した。ご家族への宣伝で約300kgを販売することができた。今後は更に作業工程を整理し、少しずつでも携われる方を増やしていきたい。

その他にも、次年度に向け新たなアート作品の商品化戦略を計画している。

◇ 社会人（職業人）として高まる

○ 重点化による取り組みについては、4か月ごとに重点テーマを決め、それに絞

って徹底的に取り組んでいる。特に感染症の予防を意識できるような内容で啓発した。

- 継続的な取り組みとして、月曜日から金曜日まで、曜日ごとに意識するポイントを決めて朝のミーティング時に周知するよう努めた。水曜日の「人権」を意識する曜日については人権推進委員会からの提案で、「利用者と同じ目線で関わらしましょう」など、より具体的な指標を示すことができた。また後期には、環境向上委員会から木曜日の「整頓・清掃」を意識する曜日についても、具体的な指標を示すことができた。

◇支援者として高まる

- 今年度も、北海道知的障がい福祉協会の人権侵害ゼロへの誓いに対し、全職員が内容を確認し、署名している。また、人権推進委員会よりグループウェアを利用して事故報告やディスカバリーレポートを都度周知し、再発防止に努めている。

- 気取らずにすこしだけホッとする時間を持つという意味で、「ちょっとした話」の時間を月曜日から金曜日まで夕方のミーティングの際に設けていたがコロナウイルスの感染予防から、朝・夕の引継ぎは集まることなく施設内ネットワークで情報共有をおこなっている。そのため、話題となりそうな話しを募り、署内グループウェア上でも展開することとした。

◇地域とのコラボレーション

- ライラック町内会の主催するイベントは、コロナウイルスの感染により、春の清掃活動のみで、その他の活動は全て中止となった。

- 特別養護老人ホームひかりのさんと

ひかりのさんが例年主催する祭りは、コロナウイルスの感染予防の観点から中止となった。また、ひかりのさんが主催する合同運営推進会議も、コロナウイルスの感染状況に応じて、不定期での開催となった。

(1) Aブロック

①チーム支援について

2021年度は大きなところでショートステイの情報の整備・利用者の余暇に焦点をあてたチーム支援を展開している。

○ショートステイの情報整備

ショートや日中一時で利用される方は不定期に利用される方や、月に一度ほどの利用頻度の方も多く、スタッフが対応にあたる際も対応の統一が難しい場面も見られていた。そのことから、チーム全員で過去の対応場面を振り返りながら利用者一人一人の情報を収集しつつ、注意ポイントについても今一度まとめ、対応マニュアルとして新たに情報の整備をして展開している。引き続き利用者の状態像に合わせ、引き続き情報の更新を継続してこととする。

○余暇支援について

利用者の週末の余暇支援で逸脱が多く見られる活動が出てきていることから、新たな余暇についてチーム支援として展開。雑誌・ソファ班。スヌーズレン班と二つのチームに分けて準備に取り組み、新たな余暇支援として展開している。引き続き利用者の余暇などに関しても必要に応じて定期的な見直しを実施していくこととする。

② その他の取り組みから

○リーダーグループ打ち合わせ

リーダーグループ内での打ち合わせとして、チーム全体の状況や日常業務などでもエラー等が生じていることを確認し、都度修正をしながらブロック運営をしている。

○コロナ禍での支援

引き続きコロナ禍としても社会情勢に合わせてながら利用者の方々にも臨機応変なスケジュールの調整に加え、外出内容の見直しを実施している。また社会情勢に合わせてながらも、週末の余暇としてドライブスルー外出等のトライや外出内容の見直しを試みている。引き続きチーム全体としても利用者のQOLを高めていける支援の展開を心掛けることとする。

(2) Bブロック

①チーム支援について

2021年度も3つのチーム支援を行っている。今年度は「きれいなゆいを常に目指す」をテーマに指導員室内の環境整備、利用者の物品整理、業務マニュアルの見直しを行った。事前にアンケートを実施することで職員一人一人の意見を反映することを心掛けた。また業務マニュアルを見直すことで業務バランスの調整を行っている。具体的には遅番や夜勤明けなど業務過多となっている時間帯を見直し配置転換することで分散化を図った。実施後に再度アンケートを取ることで達成度を数値化し評価している。業務環境の改善に関しては今後も継続して意識していく。

第二期では儀式的行動に焦点を当て拡大したことによりQOLの低下がみられ

ている利用者の食事場面のリセットを計画した。特性を振り返ることで「強み」を活かした支援展開として新規場面を設定することでアプローチしている。アセスメントから支援展開までを二期に渡り実施したことにより支援の基礎を振り返る学ぶ機会となった。

(3) Cブロック

①チーム支援について

1つめのテーマは「利用者作業館移行と再構造化」を実施している。法人利用者の移行に伴い、活動場所の変更があり作業館での活動に移行している。利用者の活動エリアのパーティション分けや、活動物品の整理、終日いる利用者に関してはスケジュールなどの導入なども行っている。

2つめは「ユニット業務のバランス調整」をおこなっている。5号館と6号館の利用者人数の違いなどから業務のバランスに差が出ているため、各利用者の活動エリアの見直しなどを行っている。他害の頻度が高い利用者には防犯の役割やプライベート空間の確保のために新たな扉の設置をした。干渉が多くストレスと高い利用者は別の場所で活動を実施。共にトラブルが減り職員の業務軽減とつながった。併せて、新職の業務時間の有効化として業務の整理やリスト化をしている。物品場所のリスト化なども行っている。歯磨き置き場や冷蔵庫の古い物品なども放置された状態となっているため、業務しやすいように整理整頓清掃などを実施した。

②その他の取り組みから

今年度は、新型コロナウイルス染予防対策に積極的に努めている。コロナによる閉鎖があったため、閉鎖時対応マニュアルなどを作成している。実際に困ったことや実施したことなどを整理して今後も同様に閉鎖などがあった際にすぐに対応できるようにしている。併せて、感染予防強化として消毒の徹底や汚物処理時のエプロン実施などを常時行っている。消毒に関してもリストを作成し時間帯に分けて実施の有無なども確認できるようにしている。今後も引き続き予防対策についてチームで確認しながら行っていく。

(4) 生活介護

①チーム支援について

今年度は、4月～7月期に新規利用者の受け入れ、3名の新規利用者の受け入れについてチーム全体で実施。8月～11月期はチーム内にて、必要のマニュアルの洗い出しと整備を行っている。12月～3月期は1名の利用者をピックアップし、チーム全体で自傷行動の緩和へのアプローチに取り組んでいる。

新規利用者受け入れ：新規利用者を受け入れるに辺り、前事業所、学校、ご家族と新たに受け入れる利用者に関して、面談や見学を行い、特性・ADL・フォーマル・インフォーマルな情報等から生活介護内でのスケジュールの組み立て、利用エリアの構造化、必要物品の準備を行っている。また、各担当にて個別支援計画の策定を行い、各ご家庭と懇談にて説明を実施、利用の契約をして頂いている。5月～7月にかけて3名の利用者が生活介護での日中生活を開始されている。各利用者移行後は、環境の変化に慣れるまで時間を要していたが徐々に生活介護での日中生活

に慣れ始め、落ち着いた生活を送ることが出来ている。2名の利用者が、なないろのショートステイを利用されている為、ご家庭やなないろ職員と関係を取り、情報の共有を密に行なっている。

マニュアルの洗い出しと整備：5月にゆい生活介護を利用されていたグループホームの利用者が、新しく設立されたなないろ生活介護への移行に伴い、ゆい生活介護の利用者が在宅中心となった為、必要なマニュアルの洗い出しをチーム内で実施。個別対応マニュアル・イレギュラー行事マニュアル(年1、2回の行事)・服薬準備チェックマニュアル・不穏時対応マニュアル等、現在の生活介護の状態として必要な部分を職員内にて確認を行い、作成を行っている。今後、利用者人数に変動があると思われる為、随時必要なマニュアルがあればチーム内にて検討を行っていくと共に既存のマニュアルに関しては、変更があれば情報を随時更新していく。

自傷行動の緩和へのアプローチ：昨年の2月頃より後頭部への自傷行為が見られる利用者があり、医療面、支援面にて自傷緩和へのアプローチを担当中心に行ってきたが、傷から着目が反らせず、傷が常時ある状態で瘡蓋が傷を覆うことが出来ない状態が続いてしまっていた為、法人内のSTP委員会(支援面で課題を抱える法人内の事業所に横断的に応援に入るシステム)、にも状態から支援面のアドバイスを頂きながらチーム支援として、チーム全体で自傷行動へのアプローチを実施している。新しい取り組みを実施していくことで日中の生活では徐々に、傷への着目が外れてきているが、ご自宅での過ごしの中で傷を触ってしまい回復までには至っていない。生活介護にて成功したアプローチ内容をご自宅でも実施できるようご家庭と協力体制を作っていく、傷の完治を目指していく。

② その他の取り組み

今年度も、引き続きコロナウイルスの感染予防と利用者の健康状態の観察及び活動の記録に努めている。

現在の生活介護は在宅利用者が主で利用をされている為、ご家庭、他法人の事業所、掛かり付けの病院等、日々の生活の中で外部との接触機会が多くある。ウイルスが「持ち込まれる」、「持ち帰ってしまう」という状態が起きないように、職員・利用者の体調管理、手洗い・手指や衣類の消毒、マスクの着用(利用者は可能な場面のみ)、定期的な環境消毒と換気を行い感染予防対策の実施している。新しい体制になってから生活介護内にて感染をされてしまうケースは出ていないが、利用者やご家族にて発熱を伴ってしまう事は、数回見られている。その際も利用の停止、PCR検査実施、行動記録の洗い出しを行うことで感染された場合のケースに備えることが出来ている。引き続き必要な感染予防をチーム内で検討・実施を行っていくことで利用者及び職員の健康状態の保持に努めていく。

(5) 事務

① 関係スタッフとの協働

・隣地に自閉症者地域生活支援センターなないろが5月に新規開業したことにより、ゆいの通所利用者のグループホーム利用者20名が移行した。順次移行であったため、利用実績の把握など現場との連絡を密に行った。

また、なないろ開業により、ゆいは事務職1名の減で事務を進めたが、PTJ(パートタイムジョブ)1名を4月に補充し、分業体制と効率化を図り対応してきた。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策では、札幌市から指示を受け関係職員のPCR検査を毎月実施、また、4月中旬、7月下旬には施設内の陽性者及び濃厚接触者対策に係る衛生資材の調達、備蓄、分配に奔走した。

- ・施設設備については、札幌市による自家発電装置設置工事が4月から開始され、入所利用者の生活への影響に配慮しながら施工を進め、12月15日に竣工となった。

② その他の取り組みから

- ・施設設備管理については、現場からの連絡を受けながら対応を進めたが、特に空調設備の不具合が多く、今夏の猛暑により対策に奔走した。

- ・給食業務委託がこれまでの会社から変更となり、現場の調整に適宜対応した。

(6) 医務

① 関係スタッフとの協働

2021年度は

1. 健康の維持・増進、衛生環境の充実の為に、予防的な関わり方の促進に努める。
2. 対象者の増加や加齢含め健康管理へのニーズの高まりを踏まえ、業務整理に努めていく。

というのを目標とし、支援者や栄養士等また施設委員会と協力しながら日々業務にあたってきていた。

年間を通じて2回の健康診断、毎月の定期往診(黒川メンタルクリニック2週に1回、すこやかクリニック月2回、北海道医療大学歯科往診月2回)、定期通院(氏家医院月1回、口腔センター適宜、医療大歯科通院適宜、皮膚科通院適宜等)、怪我等での臨時通院対応、インフルエンザ予防接種(11月実施)、毎月の定期採血検査(概ね利用者ごと1~6ヶ月)を実施。

日々の業務としても、異常の早期発見含めた体調管理、感染予防、多種の薬剤管理等を、随時医療機関や薬局、支援者とも協働し実施することで、目標達成に努めてきた。

ただ今年も昨年同様周囲はコロナ感染の蔓延で、特に前半は各部署を閉鎖しなければいけない事態が生じ、感染の蔓延防止に努めなければいけない日々が続いたり、昨年以上に思い通りに受診や検診等医療面の充実が図りづらい日々ではあった。半面新たにコロナワクチン接種の対応含め「感染予防」については、昨年以上に実働や啓発に多くの時間を費やしてきた。次年度以降も「ウィズコロナ」という事で何が出来るかを考慮していく必要がある。

① その他の取り組みから

生活に即した介護のスキルアップを図るため、環境向上委員会とも連動しながら、より快適・安全で健康的な生活を提供するために活動してきている。今年度も誤薬対策、感染予防、救命救急や食事等による気道閉塞予防、口腔ケア等、健

康や衛生管理について啓発活動や振り返りを行うことができたが、毎年新人職員を多く向かい入れている事もあり、継続して取り組んでいく必要がある。

(7) 栄養

① 関係スタッフとの協働

ご本人の特性を正しく理解し健康の保持増進、生活習慣病予防を目標とした栄養管理を行なう。

ご本人の身体状況を把握し関係スタッフとの情報交換を行い、食事摂取状況、摂食嚥下機能を配慮し必要に応じて可能な限り個別対応を行い食形態を含め安全な食事を提供する。

状況を客観的に捉え課題を抽出し栄養ケア計画を年間4回（おおよそ3ヵ月）作成し介入した結果栄養状態はどのようになったのか評価を行う。

② その他の取り組みから

給食業務委託が㈱ベネミールと新規契約となり1年が経過した。労務時間の削減や人手不足の中で負担のかからない、誰にでもできる業務内容が重要となり手作りと完調品を織り交ぜた食事を提供している。個別対応については、施設側が求めるものと委託会社側のキャパシティに差異があり、ニーズに対応できないこともあるが双方協議を行い折り合いの付く形で対応している。情報共有や適切な業務分担で徹底した衛生管理で安心安全な食事の提供と栄養ケアの支援に繋がるように努める。

非常事態に備え90人×3食×3日間の非常食を24種類、準備していたが2022年5月におよそ半数の食材が期限切れとなる。

今後準備するものについては、利用者が「食べることができる。」「安心して飲み込むことができる。」提供する側が「なるべく負担を感じない」非常食を選んていく必要がある。

(8) 各委員会

作業委員会

① 利用者プロデュースの推進

- ・余暇委員会と連携し外部への販売を計画していたが今年度はコロナ禍の影響もあり実施せず。今年度はラインスタンプ販売実現にむけた話し合い及び試行を行った。

② 作業

大根の皮むき実施者の大多数が生活介護事業所「なないろ」へ移行するため、困難と判断し4月をもって中止となる。その他作業に関して以下の通りとなっている。

- ・ウエス作業は仕入先が材料不足の影響により実施不可となっている。
- ・ウツボのパッケージング作業は仕入先「あるば」次第で材料を斡旋していただき、その量次第で実施している。
- ・ペットボトル分別作業は、継続して実施している。

なお、菌床を活用した肥料の作成からパッケージングなどを利用者に参加してい

ただくために委員会で希望利用者さんを募集しアセスメントを行っている。その他、新規作業の開拓を行い、賃金の向上を目指し定期的に話し合いを行った。今後はたい肥作業を定期的に行う機会を設け、既存作業は取引先との状態を見て、賃金向上を目指す。

③ その他の取り組みから

- ・今年度も昨年度同様、多岐にわたる業務に対して明確な役割分担、効率的な運営などを積極的に行い組織力の向上を図っている。また、工賃のお渡し方法についてどのようにしたら効率的かつわかりやすいかを模索してきた。今後も業務の整理等を行い効率的な委員会運営を目指す。

環境向上委員会

① 啓発活動

昨年度に引き続き、動画配信形式での啓発（感染症予防・誤薬防止・気道閉塞）を行った。これまでは既存のスライドを使用していたが発信だったが、今年度から本格的に新型コロナ予防の啓発を加えたことから、その他の啓発分野でも従来の資料内容の見直し、必要に応じて新規作成を行った。この行程により、啓発を受ける側だけではなく、啓発する側も見聞を広めることができた。

② 緊急対応についてのフローチャート作成

突発的な怪我や癲癇発作、入浴時の事故、不審者の侵入等、有事の際にどのような手順で対応していけば良いのか、夜間帯での発生も視野に入れ、フローチャート形式で文書を作成。各部署へ一部ずつ配布した。

③ その他の取り組みから

汚物処理室の環境改善等、毎年衛生管理の側面からも啓発を行っているが、今年度は各利用者の居室環境や身の回りの清潔に焦点を当て、感染症予防の分野と絡めて発信している。日々の清掃の必要性・重要性について、次年度以降も継続して啓発を行っていききたい。

人権推進委員会

① 人権意識向上に関する啓発

・「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施している。1回目を終えた後に広報にて結果を発表し、意識向上に向けた啓発を行った。その後2回目を実施して数値の変化についてポスト評価し、結果についてフィードバックしている。

・虐待防止研修動画を作成し、職員に視聴という形で参加していただいた。虐待防止マニュアルを基に、虐待に関する知識や実際の事例についても紹介しており、学びを深めることができた。

② メンタルヘルスに関する取り組み

メンタルヘルスに関わる座談会を実施した。ストレスやこころの健康をテーマして意見交換をし、考えの共有を図った。座談会の様子を動画にて公開することで、当日参加できなかった職員にも広く情報共有することができた。

③ その他取り組みから

個別支援計画について利用者、ご家族、支援者等関わる全ての方にとって理解し

やすく、使いやすい計画となるよう書式のバージョンアップを行った。事前にアンケートを実施し、改善が必要な箇所等について分析することで根拠に基づく取り組みとなった。

余暇委員会

①余暇支援の推進

- ・朝、夕の引継ぎ簡略化に伴い「ホッと話す話」の形態を変更した。
以前は利用者に関する内容のみだったが、「仕事編」「プライベート編」2つのお題リストを作成。リストから選択し、記載した内容を所定ボックスへ紙面にて投函する仕組みに変更。夕の引継ぎメッセージ上にてランダムに発表。
- ・アート活動の推進
施設内展示及び利用者アートグッズの作成に向けたアート募集の周知。年賀状デザイン作成。利用者作品の整理を実施した。

②笑顔プロジェクト

- ・「笑顔プロジェクト」としての動画作成は昨年度同様中止とし、その代替としてご家族向けの利用者動画及び写真アルバムの作成を実施した。

③その他の取り組み

- ・新しい取り組みである「ラインスタンプ」販売実現に向けた、利用者アートの選定を随時開始していく。
- ・職員懇親会の代替え案に関しても検討課題である。



2021年度

札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる
事業報告

社会福祉法人はるにれの里

目 次

1. 発達障がい支援センターの役割	1
2. 個別の支援件数（のべ）について	1
3. 支援対象者について	1
4. 普及・啓発や連携について	2

1. 発達障がい支援センターの役割

札幌市自閉症・発達障がい支援センター（愛称おがる）は、「普及・啓発」「連携」「相談支援」「発達支援」「就労支援」の5つの機能を有している。近年では地域支援機能強化が求められており、「普及・啓発」や「連携」についての体制づくりが求められている。また発達障害者地域支援マネジャーを配置し、困難ケースへの対応、地域支援体制作りをおこなっている。

2. 個別の支援件数（のべ）について

（1）札幌市内の個別の支援件数（のべ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援	68	54	79	67	50	79	52	46	52	50	56	72	725
発達支援	2	0	2	1	6	8	8	4	2	3	0	1	37
就労相談・支援	10	6	5	11	3	6	4	3	6	6	4	12	76
合計	80	60	86	79	59	93	64	53	60	59	60	85	838

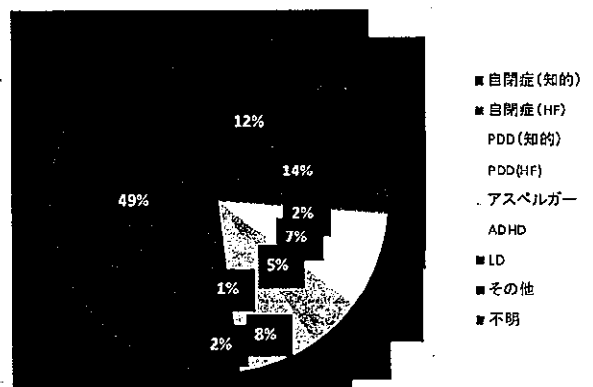
注：発達支援 ～発達検査などアセスメントにかんすること
 就労相談 就労支援～実際の就労に向けた支援にかんすること

昨年度との数値を比較すると、「個別の支援件数（のべ）」は、新型コロナウイルスの影響もあり、100名程減少している。緊急事態宣言等の影響で来所相談を制限したことも影響があると思われるが、緊急事態宣言期間中は電話相談やオンラインでの相談（一部）等を整備して、相談を受けられる環境を整え、市民の方が相談しやすい環境づくりに努めた。

3. 支援対象者について

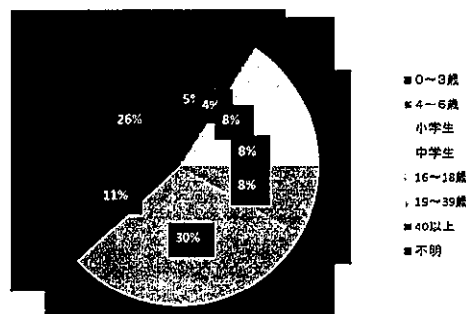
（1）対象者の障がい種別内訳（リストより）

	相談	発達	就相	就支	合計
自閉症(知的)	50	2	1	1	54
自閉症(HF)	60	1	4	1	66
PDD(知的)	8	0	0	0	8
PDD(HF)	30	0	1	3	34
アスペルガー	19	0	2	2	23
ADHD	34	0	1	0	35
LD	3	0	0	0	3
その他	7	0	0	3	10
不明	210	3	5	7	225
合計	421	6	14	17	458



(2) 対象者の年齢層 (リスト)

	相談	発達	就相	就支	合計
0～3歳	21	0	2	2	25
4～6歳	16	1	0	0	17
小学生	36	1	0	0	37
中学生	35	1	0	0	36
16～18歳	36	0	0	0	36
19～39歳	117	2	9	11	139
40以上	49	0	1	0	50
不明	111	1	2	4	118
合計	421	6	14	17	458



(3) 相談支援登録者数 (リスト)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録数	63	40	52	46	36	44	25	25	29	22	23	40	445

リストは当センターに登録された人数である。このリストの人数については、昨年より少ない数値になっているが、個別の相談件数（延べ）と同様、新型コロナウイルスの影響を受けた結果となっている。また、対象者の年齢層でも成人期の相談が多いことは例年と同じである。（昨年より成人の相談が少し減少しているが、リストの各比率は、ほぼ同様となっている）相談内容に関しては、コロナ禍にかかわる特有の相談は多くみられず、例年通りの内容となっている。

4. 普及・啓発や連携について

(1) 研修会

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	9	11	14	22	17	25	23	25	23	10	13	13	205
人数	99	648	292	409	399	380	821	621	934	163	309	217	5292

(2) 個別調整会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	16	13	12	16	17	28	27	32	22	27	8	28	246
マネジャー	7	6	3	8	12	14	22	24	14	15	5	15	145

(3) 機関支援 【機関数 121機関】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	22	20	18	14	9	9	16	7	6	8	4	5	138

(4) 各種調整会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	5	8	11	10	7	6	7	11	10	6	8	6	95
マネジャー	5	7	8	5	5	4	5	9	5	5	5	5	68

研修に関しては、昨年から引き続き、新型コロナウイルスの影響があり、継続してオンラインでの研修など、例年とは違う方法も取り入れて事業を行った。研修会については実施回数198回という数が出ている。オンラインコンテンツ視聴方研修や YouTube チャンネルの開設もあり、研修回数自体は昨年より少なくなっているが、より多くの方におがるの研修等に触れる機会を作ることができた。また、従来通りの集合研修も行うことができたので、参加人数は昨年度より2000人以上多い参加人数になっている。オンラインのコンテンツ型研修も継続して多くの申し込みがあり、事業所での研修に活用される機会が増えた。おがるの YouTube チャンネルは、公開動画も増やしてより多くの人にご視聴いただける機会を作ることができた。今年度も研修機会の確保のため、ニーズに合わせた開催方法をとることができた。

機関支援においては機関数138機関・延支援回数694回、個別の調整会議246回という結果で、オンラインも併用して行ってきた。オンライン等の実施の工夫ができたことにより、例年に近づいた数値になることができた。また、地域支援マネジャーの2名配置により、機関支援・調整会議での困難ケース事例が増えてきている。

「普及・啓発や連携」はイベント開催の制限があるので、オンラインでのコンテンツ視聴型研修や発達障がい講座スタートを開始し、一般市民向けや支援者向けの普及啓発として取り組むことができた。

「モデル事業」については、スタッフそれぞれの専門領域を生かして青年期の就労準備支援や早期療育などの事例に取り組むことができた。また、機関支援の効果を測定するため、機関評価システムの作成や事業所の中核者に向けたモデル研修も実施している。

地域支援体制強化の中では地域支援マネジャーが配置され機関支援や個別の調整会議などで主に触法ケースに関わっている。今年度は542件マネジャー業務としてケースに関わり、年々ケースの件数が上がっている。

その他には、発達障がい者支援地域協議会に協力し、発達障がいのある方やご家族への支援体制について、さまざまな分野を縦横断的に課題共有、情報整理をする場として運営した。



統括会計責任者	出納員

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	収入				
	《障害福祉サービス等事業収入》	246,374,000	247,676,784	-1,302,784	
	自立支援給付費収入	225,025,000	226,352,810	-1,327,810	
	介護給付費収入	225,025,000	226,352,810	-1,327,810	
	特例介護給付費収入				
	訓練等給付費収入				
	利用者負担金収入				
	補足給付費収入	2,800,000	2,825,290	-25,290	
	特定障害者特別給付費収入	2,800,000	2,825,290	-25,290	
	特定費用収入	18,157,000	18,057,608	99,392	
	その他の事業収入	392,000	441,076	-49,076	
	補助金事業収入(公費)		41,000	-41,000	
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)	20,000	28,076	-8,076	
	受託事業収入(一般)				
	その他の事業収入	372,000	372,000		
	(保険等査定減)				
	《私的契約事業収入》				
	実費負担金事業収入				
	《その他の事業収入》	19,875,000	19,874,700	300	
	その他の事業収入	19,875,000	19,874,700	300	
	補助金事業収入(公費)				
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)	19,875,000	19,874,700	300	
	受託事業収入(一般)				
	その他の事業収入				
	《借入金利息補助金収入》				
	《経常経費寄附金収入》				
	《受取利息配当金収入》		795	-795	
	《その他の収入》	2,828,000	2,566,985	261,015	
受入研修費収入					
利用者等外給食費収入	2,420,000	2,348,400	71,600		
雑収入	408,000	218,585	189,415		
《流動資産評価益等による資金増加額》					
事業活動収入計(1)	269,077,000	270,119,264	-1,042,264		
支出	《人件費支出》	199,212,000	201,837,100	-2,625,100	
	役員報酬支出				
	職員給料支出	129,434,000	129,996,643	-562,643	
	職員賞与支出	35,544,000	37,050,500	-1,506,500	
	非常勤職員給与支出	4,082,000	4,553,540	-471,540	
	派遣職員費支出				
	退職給付支出	3,961,000	3,531,020	429,980	
	法定福利費支出	26,191,000	26,705,397	-514,397	
	《事業費支出》	40,250,000	40,250,572	-572	
	給食費支出	11,900,000	10,595,897	1,304,103	
	介護用品費支出				
	保健衛生費支出	3,000,000	2,850,719	149,281	
	被服費支出	1,000,000	1,065,760	-65,760	
	教養娯楽費支出	170,000	68,872	101,128	
	日用品費支出	750,000	1,158,754	-408,754	
	水道光熱費支出	16,450,000	16,833,844	-383,844	
	燃料費支出				
	消耗器具備品費支出	700,000	1,413,699	-713,699	
	保険料支出	2,000,000	1,385,042	614,958	
	賃借料支出	2,780,000	3,741,532	-961,532	
	教育指導費支出				
	葬祭費支出				
	車輛費支出	1,500,000	1,136,453	363,547	
雑支出					

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	支 出				
	《事務費支出》	28,980,000	28,015,308	964,692	
	福利厚生費支出	620,000	536,550	83,450	
	職員被服費支出				
	旅費交通費支出	30,000	17,380	12,620	
	研修研究費支出	150,000	84,280	65,720	
	事務消耗品費支出	1,100,000	970,090	129,910	
	印刷製本費支出	600,000	480,541	119,459	
	修繕費支出	3,000,000	2,473,117	526,883	
	通信運搬費支出	1,700,000	1,808,364	-108,364	
	会議費支出				
	広報費支出	200,000	49,500	150,500	
	業務委託費支出	18,540,000	18,488,802	51,198	
	手数料支出	800,000	823,528	-23,528	
	土地・建物賃借料支出				
	租税公課支出	160,000	105,580	54,420	
	保守料支出	1,800,000	1,981,320	-181,320	
	渉外費支出	80,000	34,456	45,544	
	諸会費支出	200,000	161,800	38,200	
	雑 支 出				
	《利用者負担軽減額》				
	《支払利息支出》				
	《その他の支出》	2,420,000	2,325,929	94,071	
	利用者等外給食費支出	2,420,000	2,325,929	94,071	
	雑 支 出				
	《流動資産評価損等による資金減少額》				
資産評価損					
資産評価損					
徴収不能額					
事業活動支出計(2)	270,862,000	272,428,909	-1,566,909		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-1,785,000	-2,309,645	524,645		
施設整備等による収支	収 入				
	《施設整備等補助金収入》				
	施設整備等補助金収入				
	設備資金借入金元金償還補助金収入				
	《施設整備等寄附金収入》				
	施設整備等寄附金収入				
	設備資金借入金元金償還寄附金収入				
	《設備資金借入金収入》				
	《固定資産売却収入》				
	土地売却収入				
	建物売却収入				
	構築物売却収入				
	機械及び装置売却収入				
	車輛運搬具売却収入				
	器具及び備品売却収入				
	ソフトウェア売却収入				
	権利売却収入				
その他の固定資産売却収入					
《その他の施設整備等による収入》					
その他の収入					
施設整備等収入計(4)					

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
施設整備等に 係る収支	支出				
	《設備資金借入金元金償還支出》				
	《固定資産取得支出》	858,000	619,850	238,150	
	土地取得支出				
	建物取得支出				
	構築物取得支出				
	機械及び装置取得支出				
	車輛運搬具取得支出				
	器具及び備品取得支出				
	ソフトウェア取得支出	858,000	619,850	238,150	
	権利取得支出				
	建設仮勘定取得支出				
その他の固定資産取得支出					
《固定資産除却・廃棄支出》					
《ファイナンス・リース債務の返済支出》					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
《その他の施設整備等による支出》					
その他の支出					
施設整備等支出計(5)	858,000	619,850	238,150		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-858,000	-619,850	-238,150		
その他の活動による 収支	収入				
	《長期運営資金借入金元金償還寄附金収入》				
	《長期運営資金借入金収入》				
	《長期貸付金回収収入》				
	《積立資産取崩収入》				
	退職給付引当資産取崩収入				
	長期預り金積立資産取崩収入				
	人件費積立資産取崩収入				
	修繕積立資産取崩収入				
	施設整備等積立資産取崩収入				
	備品購入等積立資産取崩収入				
	減価償却積立資産取崩収入				
	《拠点区分間長期借入金収入》				
	《拠点区分間長期貸付金回収収入》				
	《拠点区分間繰入金収入》				
	《その他の活動による収入》				
	その他の収入				
	差入保証金返還収入				
その他の活動収入計(7)					
支出					
《長期運営資金借入金元金償還支出》					
《長期貸付金支出》					
《積立資産支出》	4,100,000	3,974,650	125,350		
退職給付引当資産支出	4,100,000	3,974,650	125,350		
長期預り金積立資産支出					
人件費積立資産支出					
修繕積立資産支出					
施設整備等積立資産支出					
備品購入等積立資産支出					
減価償却積立資産支出					
《拠点区分間長期貸付金支出》					
《拠点区分間長期借入金返済支出》					
《拠点区分間繰入金支出》	6,000,000	6,000,000			
《その他の活動による支出》					
その他の支出					
差入保証金支出					
その他の活動支出計(8)	10,100,000	9,974,650	125,350		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-10,100,000	-9,974,650	-125,350		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-12,743,000	-12,904,145	161,145		
前期末支払資金残高(12)	109,667,182	109,667,182			
当期末支払資金残高(11)+(12)	96,924,182	96,763,037	161,145		

統括会計責任者	出納員

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	収 益			
	【障害福祉サービス等事業収益】	247,676,784	304,566,316	-56,889,532
	自立支援給付費収益	226,352,810	279,805,763	-53,452,953
	介護給付費収益	226,352,810	279,805,763	-53,452,953
	特例介護給付費収益			
	訓練等給付費収益			
	利用者負担金収益		7,765	-7,765
	補足給付費収益	2,825,290	3,536,820	-711,530
	特定障害者特別給付費収益	2,825,290	3,536,820	-711,530
	特定費用収益	18,057,608	19,333,820	-1,276,212
	その他の事業収益	441,076	1,882,148	-1,441,072
	補助金事業収益(公費)	41,000	1,415,000	-1,374,000
	補助金事業収益(一般)			
	受託事業収益(公費)	28,076	97,148	-69,072
	受託事業収益(一般)			
	その他の事業収益 (保険等査定減)	372,000	370,000	2,000
	【私的契約事業収益】			
	実費負担金事業収益			
	【その他の事業収益】	19,874,700	20,572,000	-697,300
	その他の事業収益	19,874,700	20,572,000	-697,300
	補助金事業収益(公費)			
	補助金事業収益(一般)			
	受託事業収益(公費)	19,874,700	20,572,000	-697,300
	受託事業収益(一般)			
	その他の事業収益			
	【経常経費寄附金収益】			
	【その他の収益】			
雑収益				
	サービス活動収益計(1)	267,551,484	325,138,316	-57,586,832
費 用	【人件費】	206,343,998	241,569,985	-35,225,987
	役員報酬			
	職員給料	129,996,643	151,237,726	-21,241,083
	職員賞与	18,650,500	25,732,900	-7,082,400
	賞与引当金繰入	18,932,248	18,400,000	532,248
	非常勤職員給与	4,553,540	7,206,805	-2,653,265
	派遣職員費			
	退職給付費用	7,505,670	7,736,460	-230,790
	法定福利費	26,705,397	31,256,094	-4,550,697
	【事業費】	40,250,572	42,299,595	-2,049,023
	給食費	10,595,897	12,592,849	-1,996,952
	介護用品費			
	保健衛生費	2,850,719	3,906,967	-1,056,248
	被服費	1,065,760	1,087,790	-22,030
	教養娯楽費	68,872	216,075	-147,203
	日用品費	1,158,754	798,635	360,119
	水道光熱費	16,833,844	15,458,901	1,374,943
	燃料費			
	消耗器具備品費	1,413,699	655,134	758,565
	保険料	1,385,042	1,712,984	-327,942
	賃借料	3,741,532	4,348,742	-607,210
	教育指導費			
	葬祭費			
	車輛費	1,136,453	1,521,518	-385,065
	雑費			

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	費用			
	【事務費】	28,015,308	28,248,317	-233,009
	福利厚生費	536,550	538,450	-1,900
	職員被服費			
	旅費交通費	17,380	4,330	13,050
	研修研究費	84,280	37,106	47,174
	事務消耗品費	970,090	839,303	130,787
	印刷製本費	480,541	494,413	-13,872
	修繕費	2,473,117	3,297,700	-824,583
	通信運搬費	1,808,364	1,815,181	-6,817
	会議費			
	広報費	49,500	188,430	-138,930
	業務委託費	18,488,802	17,678,342	810,460
	手数料	823,528	786,396	37,132
	土地・建物賃借料			
	租税公課	105,580	108,100	-2,520
	保守料	1,981,320	2,223,516	-242,196
	渉外費	34,456	35,250	-794
	諸会費	161,800	201,800	-40,000
	雑費			
	【利用者負担軽減額】			
	利用者負担軽減額			
	【減価償却費】	3,492,511	3,684,868	-192,357
	建物減価償却費	1,379,247	1,350,504	28,743
	構築物減価償却費	1,431,708	1,431,708	
	機械及び装置減価償却費	64,642	64,642	
	車輛運搬具減価償却費	232,168	232,168	
器具及び備品減価償却費	168,352	339,842	-171,490	
有形リース資産減価償却費				
ソフトウェア償却費	216,394	266,004	-49,610	
無形リース資産減価償却費				
その他の減価償却費				
【国庫補助金等特別積立金取崩額】				
【徴収不能額】				
【徴収不能引当金繰入】				
【その他の費用】				
サービス活動費用計(2)	278,102,389	315,802,765	-37,700,376	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-10,550,905	9,335,551	-19,886,456	
サービス活動外増減の部	収益			
	【借入金利息補助金収益】			
	【受取利息配当金収益】	795	1,376	-581
	【その他のサービス活動外収益】	2,566,985	3,456,063	-889,078
	受入研修費収益			
	利用者等外給食収益	2,348,400	3,066,600	-718,200
	雑収益	218,585	389,463	-170,878
	サービス活動外収益計(4)	2,567,780	3,457,439	-889,659
	費用			
	【支払利息】			
【その他のサービス活動外費用】	2,325,929	2,764,283	-438,354	
利用者等外給食費	2,325,929	2,764,283	-438,354	
雑損失				
サービス活動外費用計(5)	2,325,929	2,764,283	-438,354	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	241,851	693,156	-451,305	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-10,309,054	10,028,707	-20,337,761	

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減			
特別増減の部	収 益	【施設整備等補助金収益】 施設整備等補助金収益 設備資金借入金元金償還補助金収益 【施設整備等寄附金収益】 施設整備等寄附金収益 設備資金借入金元金償還寄附金収益 【長期運営資金借入金元金償還寄附金収益】 【固定資産受贈額】 固定資産受贈額 【固定資産売却益】 土地売却益 建物売却益 構築物売却益 機械及び装置売却益 車輛運搬具売却益 器具及び備品売却益 ソフトウェア売却益 権利売却益 その他の固定資産売却益 【拠点区分間繰入金収益】 【拠点区分間固定資産移管収益】 【その他の特別収益】 徴収不能引当金戻入益 会計基準適用による過年度修正額					
		特別収益計(8)					
	費 用	費 用	【基本金組入額】 【資産評価損】 【固定資産売却損・処分損】 土地売却損・処分損 建物売却損・処分損 構築物売却損・処分損 機械及び装置売却損・処分損 車輛運搬具売却損・処分損 器具及び備品売却損・処分損 ソフトウェア売却損・処分損 権利売却損・処分損 その他の固定資産売却損・処分損 【国庫補助金等特別積立金取崩額】 【国庫補助金等特別積立金積立額】 【災害損失】 【拠点区分間繰入金費用】 【拠点区分間固定資産移管費用】 【その他の特別損失】				
			特別費用計(9)	6,000,000	26,000,000	-20,000,000	
			特別増減差額(10)=(8)-(9)	-6,000,000	-26,000,002	20,000,002	
			当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-16,309,054	-15,971,295	-337,759	
		繰越活動増減差額の部	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12) 当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12) 基本金取崩額(14) その他の積立金取崩額(15) 人件費積立金取崩額 修繕積立金取崩額 施設整備等積立金取崩額 備品購入等積立金取崩額 減価償却積立金取崩額 その他の積立金積立額(16) 人件費積立金積立額 修繕積立金積立額 施設整備等積立金積立額 備品購入等積立金積立額 減価償却積立金積立額	130,294,839	129,266,134	1,028,705
				次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	113,985,785	113,294,839	690,946
						20,000,000	-20,000,000
						20,000,000	-20,000,000
						3,000,000	-3,000,000
						3,000,000	-3,000,000
					113,985,785	130,294,839	-16,309,054

統括会計責任者	会計責任者	出納職員

おがる拠点区分 資金収支計算書

おがる【税込】

(自) 令和 3年 4月 1日 (至) 令和 4年 3月31日

(単位：円)

		勘定科目	予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	収 入	《障害福祉サービス等事業収入》	40,945,000	41,047,300	-102,300	
		自立支援給付費収入				
		介護給付費収入				
		その他の事業収入	40,945,000	41,047,300	-102,300	
		補助金事業収入(公費)				
		補助金事業収入(一般)				
		受託事業収入(公費)	40,945,000	41,047,300	-102,300	
		受託事業収入(一般)				
		(保険等査定減)				
		《その他の事業収入》				
		その他の事業収入				
		補助金事業収入(公費)				
		補助金事業収入(一般)				
		受託事業収入(公費)				
		受託事業収入(一般)				
		その他の事業収入				
		《借入金利息補助金収入》				
		《経常経費寄附金収入》				
		《受取利息配当金収入》		66	-66	
		《その他の収入》	450,000	238,198	211,802	
	受入研修費収入					
	利用者等外給食費収入					
	雑収入	450,000	238,198	211,802		
	《流動資産評価益等による資金増加額》					
	事業活動収入計(1)	41,395,000	41,285,564	109,436		
事業活動による収支	支 出	《人件費支出》	40,433,000	38,178,722	2,254,278	
		役員報酬支出				
		職員給料支出	24,780,000	24,923,760	-143,760	
		職員賞与支出	8,233,000	7,649,400	583,600	
		非常勤職員給与支出	1,670,000		1,670,000	
		派遣職員費支出				
		退職給付支出	500,000	489,500	10,500	
		法定福利費支出	5,250,000	5,116,062	133,938	
		《事業費支出》	4,013,000	3,297,678	715,322	
		給食費支出				
		介護用品費支出				
		保健衛生費支出				
		日用品費支出				
		水道光熱費支出	1,780,000	1,870,427	-90,427	
		燃料費支出				
		消耗器具備品費支出	570,000	55,346	514,654	
		保険料支出	420,000	214,500	205,500	
		賃借料支出	993,000	1,016,592	-23,592	
		教育指導費支出				
		葬祭費支出				
	車輛費支出	250,000	140,813	109,187		
	雑支出					

おがる拠点区分 資金収支計算書

おがる【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

		勘定科目	予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	支 出	《事務費支出》	2,725,000	2,562,909	162,091	
		福利厚生費支出	150,000	185,990	-35,990	
		職員被服費支出				
		旅費交通費支出	300,000	101,740	198,260	
		研修研究費支出	900,000	821,849	78,151	
		事務消耗品費支出				
		印刷製本費支出	260,000	112,117	147,883	
		修繕費支出				
		通信運搬費支出	300,000	430,386	-130,386	
		会議費支出				
		広報費支出				
		業務委託費支出	610,000	715,330	-105,330	
		手数料支出	100,000	98,717	1,283	
		土地・建物賃借料支出				
		租税公課支出	40,000	34,500	5,500	
		保守料支出	40,000	38,280	1,720	
		渉外費支出				
		諸会費支出	25,000	24,000	1,000	
		雑支出				
		《利用者負担軽減額》				
	《支払利息支出》					
	《その他の支出》					
	利用者等外給食費支出					
	雑支出					
	《流動資産評価損等による資金減少額》					
	資産評価損					
	資産評価損					
	徴収不能額					
	事業活動支出計(2)	47,171,000	44,039,309	3,131,691		
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-5,776,000	-2,753,745	-3,022,255		
施設整備等による収支	収 入	《施設整備等補助金収入》				
		施設整備等補助金収入				
		設備資金借入金元金償還補助金収入				
		《施設整備等寄附金収入》				
		施設整備等寄附金収入				
		設備資金借入金元金償還寄附金収入				
		《設備資金借入金収入》				
		《固定資産売却収入》				
		土地売却収入				
		建物売却収入				
		構築物売却収入				
		機械及び装置売却収入				
		車輛運搬具売却収入				
		器具及び備品売却収入				
		ソフトウェア売却収入				
		権利売却収入				
		その他の固定資産売却収入				
	《その他の施設整備等による収入》					
	その他の収入					
	施設整備等収入計(4)					

おがる拠点区分 資金収支計算書

おがる【税込】

(自) 令和 3年 4月 1日 (至) 令和 4年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
施設整備等による収支	支 出				
	《設備資金借入金元金償還支出》				
	《固定資産取得支出》				
	土地取得支出				
	建物取得支出				
	構築物取得支出				
	機械及び装置取得支出				
	車輛運搬具取得支出				
	器具及び備品取得支出				
	ソフトウェア取得支出				
権利取得支出					
建設仮勘定取得支出					
その他の固定資産取得支出					
《固定資産除却・廃棄支出》					
《ファイナンス・リース債務の返済支出》					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
《その他の施設整備等による支出》					
その他の支出					
施設整備等支出計(5)					
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)					
その他の活動による収支	収 入				
	《長期運営資金借入金元金償還寄附金収入》				
	《長期運営資金借入金収入》				
	《長期貸付金回収収入》				
	《積立資産取崩収入》				
	退職給付引当資産取崩収入				
	長期預り金積立資産取崩収入				
	人件費積立資産取崩収入				
	修繕積立資産取崩収入				
	施設整備等積立資産取崩収入				
	備品購入等積立資産取崩収入				
	減価償却積立資産取崩収入				
	《拠点区分間長期借入金収入》				
	《拠点区分間長期貸付金回収収入》				
	《拠点区分間繰入金収入》	4,900,000	4,342,000	558,000	
《その他の活動による収入》					
その他の収入					
差入保証金返還収入					
その他の活動収入計(7)	4,900,000	4,342,000	558,000		
その他の活動による収支	支 出				
	《長期運営資金借入金元金償還支出》				
	《長期貸付金支出》				
	《積立資産支出》	780,000	759,660	20,340	
	退職給付引当資産支出	780,000	759,660	20,340	
	長期預り金積立資産支出				
	人件費積立資産支出				
	修繕積立資産支出				
	施設整備等積立資産支出				
	備品購入等積立資産支出				
	減価償却積立資産支出				
	《拠点区分間長期貸付金支出》				
	《拠点区分間長期借入金返済支出》				
	《拠点区分間繰入金支出》				
	《その他の活動による支出》				
その他の支出					
差入保証金支出					
その他の活動支出計(8)	780,000	759,660	20,340		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	4,120,000	3,582,340	537,660		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-1,656,000	828,595	-2,484,595		
前期末支払資金残高(12)	6,713,916	6,713,916			
当期末支払資金残高(11)+(12)	5,057,916	7,542,511	-2,484,595		

税括会計責任者	会計責任者	出納職員

おがる拠点区分 事業活動計算書

おがる 【税込】 (自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位: 円)

		勘定科目	本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	収益	【障害福祉サービス等事業収益】	41,047,300	40,637,000	410,300
		自立支援給付費収益			
		介護給付費収益			
		その他の事業収益	41,047,300	40,637,000	410,300
		補助金事業収益(公費)			
		補助金事業収益(一般)			
		受託事業収益(公費)	41,047,300	40,637,000	410,300
		受託事業収益(一般)			
		(保険等査定減)			
		【その他の事業収益】			
		その他の事業収益			
		補助金事業収益(公費)			
		補助金事業収益(一般)			
受託事業収益(公費)					
受託事業収益(一般)					
その他の事業収益					
【経常経費寄附金収益】					
【その他の収益】					
雑収益					
		サービス活動収益計(1)	41,047,300	40,637,000	410,300
費用	費用	【人件費】	37,293,062	39,724,331	-2,431,269
		役員報酬			
		職員給料	24,923,760	24,008,572	915,188
		職員賞与	4,189,900	4,348,800	-158,900
		賞与引当金繰入	1,814,180	3,459,500	-1,645,320
		非常勤職員給与		1,504,040	-1,504,040
		派遣職員費			
		退職給付費用	1,249,160	1,228,160	21,000
		法定福利費	5,116,062	5,175,259	-59,197
		【事業費】	3,297,678	3,124,989	172,689
		給食費			
		介護用品費			
		保健衛生費			
		日用品費			
		水道光熱費	1,870,427	1,717,656	152,771
		燃料費			
		消耗器具備品費	55,346	227,989	-172,643
		保険料	214,500	318,060	-103,560
		賃借料	1,016,592	688,114	328,478
		教育指導費			
		葬祭費			
		車輜費	140,813	173,170	-32,357
		雑費			
		【事務費】	2,562,909	1,883,209	679,700
		福利厚生費	185,990	129,230	56,760
		職員被服費			
		旅費交通費	101,740	113,380	-11,640
		研修研究費	821,849	392,377	429,472
		事務消耗品費			
		印刷製本費	112,117	120,391	-8,274
		修繕費			
		通信運搬費	430,386	292,404	137,982
		会議費			
広報費					
業務委託費	715,330	607,200	108,130		
手数料	98,717	96,947	1,770		
土地・建物賃借料					
租税公課	34,500	68,000	-33,500		
保守料	38,280	38,280			
渉外費					
諸会費	24,000	25,000	-1,000		
雑費					

おがる拠点区分 事業活動計算書

おがる【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

		勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	費用	【利用者負担軽減額】			
		【減価償却費】	236,689	418,794	-182,105
		建物減価償却費	125,280	125,280	
		構築物減価償却費			
		機械及び装置減価償却費			
		車両運搬具減価償却費			
		器具及び備品減価償却費	111,409	293,514	-182,105
		有形リース資産減価償却費			
		ソフトウェア償却費			
		無形リース資産減価償却費			
		その他の減価償却費			
		【国庫補助金等特別積立金取崩額】			
		【徴収不能額】			
【徴収不能引当金繰入】					
【その他の費用】					
		サービス活動費用計(2)	43,390,338	45,151,323	-1,760,985
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-2,343,038	-4,514,323	2,171,285
サービス活動外増減の部	収益	【借入金利息補助金収益】			
		【受取利息配当金収益】	66	72	-6
		【その他のサービス活動外収益】	238,198	761,277	-523,079
		受入研修費収益			
		利用者等外給食収益			
		雑収益	238,198	761,277	-523,079
		サービス活動外収益計(4)	238,264	761,349	-523,085
サービス活動外増減の部	費用	【支払利息】			
		【その他のサービス活動外費用】			
		利用者等外給食費			
		雑損失			
		サービス活動外費用計(5)			
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	238,264	761,349	-523,085
経常増減差額(7)=(3)+(6)			-2,104,774	-3,752,974	1,648,200
特別増減の部	収益	【施設整備等補助金収益】			
		施設整備等補助金収益			
		設備資金借入金元金償還補助金収益			
		【施設整備等寄附金収益】			
		施設整備等寄附金収益			
		設備資金借入金元金償還寄附金収益			
		【長期運営資金借入金元金償還寄附金収益】			
【固定資産受贈額】					
		固定資産受贈額			

おがる拠点区分 事業活動計算書

おがる【税込】

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増減
特別増減の部	収益			
	【固定資産売却益】			
	土地売却益			
	建物売却益			
	構築物売却益			
	機械及び装置売却益			
	車輛運搬具売却益			
	器具及び備品売却益			
	ソフトウェア売却益			
	権利売却益			
その他の固定資産売却益				
【拠点区分間繰入金収益】	4,342,000	2,409,100	1,932,900	
【拠点区分間固定資産移管収益】				
【その他の特別収益】				
徴収不能引当金戻入益				
会計基準適用による過年度修正額				
特別収益計(8)	4,342,000	2,409,100	1,932,900	
費用	【基本金組入額】			
	【資産評価損】			
	【固定資産売却損・処分損】		1	-1
	土地売却損・処分損			
	建物売却損・処分損			
	構築物売却損・処分損			
	機械及び装置売却損・処分損			
	車輛運搬具売却損・処分損			
	器具及び備品売却損・処分損	1		-1
	ソフトウェア売却損・処分損			
	権利売却損・処分損			
	その他の固定資産売却損・処分損			
	【国庫補助金等特別積立金取崩額】			
	【国庫補助金等特別積立金積立額】			
	【災害損失】			
	【拠点区分間繰入金費用】			
【拠点区分間固定資産移管費用】				
【その他の特別損失】				
特別費用計(9)		1	-1	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	4,342,000	2,409,099	1,932,901	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	2,237,226	-1,343,875	3,581,101	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	4,212,710	2,560,585	1,652,125
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	6,449,936	1,216,710	5,233,226
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)		2,996,000	-2,996,000
	人件費積立金取崩額			
	修繕積立金取崩額		2,996,000	-2,996,000
	施設整備等積立金取崩額			
	備品購入等積立金取崩額			
	減価償却積立金取崩額			
	その他の積立金積立額(16)			
人件費積立金積立額				
修繕積立金積立額				
施設整備等積立金積立額				
備品購入等積立金積立額				
減価償却積立金積立額				
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	6,449,936	4,212,710	2,237,226	